

ビーチサッカー競技規則 2023-24 の変更における日本協会の解説

第8条－プレーの開始および再開

要約表

反則	キックオフの結果		
	ボールがゴールに入る	ボールがゴールに入らない	再開の位置
キッカーによる反則 (2度触り)	守備側チームの フリーキック	守備側チームの フリーキック	ピッチの中央または 反則が行われた場所
キッカー以外の攻撃 側チームの競技者による 反則(相手ハーフに入る)	キックオフのやり直し、 反則を行った競技者を警告	キックオフのやり直し、 反則を行った競技者を警告	ピッチの中央
守備側競技者による 反則(ボールから規定の 距離を離れない)	得点	キックオフのやり直し、 反則を行った競技者を警告	ピッチの中央
同時に攻撃側チームの 競技者と守備側チームの 競技者が反則	キックオフのやり直し、 両方の競技者を警告	キックオフのやり直し、 両方の競技者を警告	ピッチの中央

解説

第8条のキックオフを行うときの反則について要約表が追加されました。守備側競技者による反則(ボールから規定の距離を離れない)があった場合で、ボールがゴールに入ったとき、英語版ではキックオフのやり直し、反則を行った競技者を警告と記載されている。しかしながら、この表記は明らかに誤りであり、正しくは得点を認め、反則を行った競技者への警告をしないことであることが FIFA ビーチサッカーワールドカップ審判員講習会において確認されたため、日本語版では得点と記載する。

競技規則の解釈およびレフェリングに求められること

第 16 条 - ゴールクリアランス

反則があったときの進め方

(…)

ゴールキーパーがゴールクリアランスを正しく行い、ボールがペナルティエリアから出てインプレーとなった後、他の競技者が触れる前に、意図的にボールに手や腕で触れた場合、主審・第2審判は、相手チー

ムにフリーキックを与え、さらにビーチサッカー競技規則に従ってゴールキーパーに懲戒処置を行うとる。

解説

英語版では「自分のペナルティーエリア外で意図的にボールに手や腕で触れた場合」と記載されている。しかしながら、ボールが投げられるまたはリリースされて明らかに動いたときにインプレーとなること、またおよび、「第12条ファウルと不正行為：-ボールを手や腕で扱う」において「プレーが再開された後、他の競技者が触れる前にゴールキーパーが再びボールに触れる反則の場合（手や腕による、よらないにかかわらず）、相手の大きなチャンスとなる攻撃を阻止した、または相手の得点や決定的な得点の機会を阻止したのであれば、懲戒の罰則が与えられる。」ことを考慮した場合、自分のペナルティーエリア内でも反則が行われる可能性がある。そのため、日本語版では「自分のペナルティーエリア外で」を削除した。